

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度 武雄市立武内小学校 学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	1.学力向上においては、校内研究での全員授業、官民一体型学校公開等を通して、ICT活用教育にこれまで力を入れてきた。その結果、児童や教職員のICTスキルは向上した。一人一人の学力向上については、今後も取り組む必要がある。来年度は、「学校生活での規律・規範意識の向上」と、授業の改善に力点を置き、学力向上を目指す。そのためには、校内研究を中心に据え、武内小スタンダードの見直しや個々の教職員の授業づくりの共有化など、教職員が一体となって学力を積み上げていく体制づくりをする。 2.来年度、特別支援学級（知的）が新設され、入級児童も増えることから、特別支援に関する教職員の専門性と意識を向上させるために、研修や特別支援学級の校内授業参観などを行っていく。通常学級に在籍している困り感のある児童に対応するためにも、板書や話し合いをさせるための発問（問い）等のユニバーサルデザインに関わる研修を深めていく。
------------------	--

2 学校教育目標	<b>楽しく学ぶ。みんなで学ぶ。深く学ぶ。～最適な教育環境を創り、個の力と集団の力を生かして子どもの姿で成果を発揮する～</b>
----------	--

3 本年度の重点目標	① 校内研究等を通して、新学習指導要領の実施における深い学びを創造する ② 体育的行事や特別活動等を通して、望ましい生活習慣や自他に対する肯定感を育む ③ 働き方改革の推進を通して、教職員の心身の健康増進と、児童と向き合う時間確保をめざす
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「深い学び」の実現のために、児童が考えを深めながら表現できる授業を創造し、一人一人の児童が考えを深めながら表現する姿をめざしていく。	●学習者同士や指導者と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができていると回答とする児童を80%以上にする。	・日々の授業や研究授業で、話し合う前に児童が書いた考えと、事後の考えを比べさせ、広がりや深まりを実感させる。							
	○ICT活用による指導力を向上させるために、花まるタイム、なぞべー授業、研究授業、英語活動、プログラミング学習、NIE等で効果的な活用方法を追究する。	○ICTを活用することで、教科等の指導力が向上したと回答する教員を85%以上にする。	・ICTスキルタイム（年4回）やICT職員研修を実施し、ICTの効果的な活用について「見て見てウィーク」を実施し指導者の授業力向上をめざす。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成を図るために、学校生活5か条を柱とし、あいさつ、言葉遣い、廊下歩行、履物の揃え等、児童への個別指導を行っていく。	●学校生活5か条のそれぞれの項目について守れていると回答する児童を75%以上にする。	・学校生活5か条の指導を全校朝会や集団下校時に行う。 ・守れていない児童への指導の仕方について、全職員で共通理解を図り、指導にあたるようにする。							
	○運動習慣の改善や保健指導の充実を図るために、体育的行事やみんなで遊ぶ日を設定したり、ブラッシング指導、性教育、食育等を通して健康づくりを行っていく。	○自主的に健康な体づくりに取り組んでいると回答する児童を80%以上にする。	・休みに縄跳び・マラソン仲間やスポーツサーキット、みんなで遊ぼうの日を設定し、実施する。 ・担任と養護教諭が連携し、年に1回以上、保健指導を行う。							
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けるために、各学級での道徳科や特別活動、全校での縦割り活動による異学年交流や児童集会を通して、児童一人一人に応じた指導や支援を行っていく。	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答をする児童を80%以上にする。	・青空教室やクリーンタイムの振り返りで児童相互の認め合いができるように「今日のMVP」を決めるようにする。							
	●いじめ0をめざすために、いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実を図り、学級経営を通して一人一人の児童の思いに寄り添い、学級としての解決策を生み出していく。	●いじめ根絶のために、学級や学校での取組、事案対応、再発防止に組織的対応ができていると回答する教員を85%以上にする。	・教育相談時間後の共通理解の場を設け、各学級の気になる児童への対応・支援を全職員で行うようにする。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●教職員の健全な心身を保つ働き方改革と児童と向き合う時間を増やす業務改善を図るために、学校行事のあり方や学級事務の簡略化を図っていく。	●個人や学校として業務改善に取り組む、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間上限(45時間/月)を下回った教職員を80%以上にする。	・各自週1回の定時退勤日の励行 ・毎日18:45までの退勤を目標にする。							
	○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っていく。	○児童への指導や支援、保護者への対応について、組織的対応ができていると回答する教員を85%以上にする。	・担任が悩みを一人で抱え込まないように報告・連絡・相談を徹底し、組織的に対応する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎義務教育を見通して社会や地域に貢献できる児童を育むために、幼保小中の連携を図り、児童一人一人の自己肯定感を育んでいく。	◎キャリアパスポートの年間振り返りで低学年は「はじめてのことにチャレンジ・か」また、中高学年は「将来の夢や目標・」の項目で、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・「チャレンジすること」「夢・目標をもつ」ことが自分を成長させることをクラスや集会で意識して伝える。							
○特別支援教育の充実	○特別支援学級（知的、自閉・情緒）の児童だけでなく、全校児童が、「わかった！できた！うれしかった！」と言える取組を行っていく。	○特別支援に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答する教員を80%以上にする。	・夏季休業中の研修で、特別支援教育に関する知識や技能を学んだり、特別支援教育のコーディネーターの実践を共有したりする。							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------